

松島正一編「対訳 ブレイク詩集—イギリス詩人選(4)—」岩波文庫、岩波書店、2004 年 6 月 16 日刊を読む

[68]Auguries of Innocence

To see a World in a Grain of Sand  
And a Heaven in a Wild Flower,  
Hold Infinity in the palm of your hand  
And Eternity in an hour.

[68]無垢の予兆

一粒の砂にも世界を  
一輪の野の花にも天国を見、  
君の掌のうちに無限を  
ひととき  
一時のうちに永遠を握る。

[68](1)ブレイクの神秘思想を説明するのによく用いられる「無垢の予兆」の最初の 4 行。

(2)全 132 行から成る「無垢の予兆」全体のプロローグであると同時に要約でもある。

(3)ここでは「一」と「多」の同時的把握が、一粒の砂と世界、一輪の野の花と天国、常と無限、一時と永遠という対立で表わされている。

P318 ~ 319

## [1] Introduction

## [1] 序の歌

Piping down the valleys wild  
 Piping songs of pleasant glee  
 On a cloud I saw a child.  
 And he laughing said to me.

崩れた谷間を笛吹きつつ  
 楽しい<sup>よろこ</sup>悦びの歌を吹きつつ下ると  
 雲の上に一人の子どもが見えた。  
 その子は笑って私に言った。

5 Pipe a song about a Lamb :  
 So I piped with merry cheer,  
 Piper, pipe that song again —  
 So I piped, he wept to hear.

「子羊の歌を吹いてよ」  
 そこで私は心楽しく笛を吹いた。  
 「笛吹きさん、もう一度その歌を吹いてよ」  
 そこで私は笛を吹き、その子は聞いて涙を流した。

Drop thy pipe thy happy pipe  
 10 Sing thy songs of happy cheer,  
 So I sung the same again  
 While he wept with joy to hear.

「笛を、楽しい笛を捨てて  
 楽しい愉快な歌をうたってよ」  
 そこで私は同じ歌をまたうたい  
 その子は聞いて喜んで涙を流した。

Piper sit thee down and write  
 In a book that all may read —  
 15 So he vanish'd from my sight  
 And I pluck'd a hollow reed.

「笛吹きさん、坐って書いてよ  
 本に、みんなが読めるように」  
 そしてその子は消えて見えなくなった。  
 私は中がうつろな<sup>あし</sup>葦を一本抜き

And I made a rural pen,  
 And I stain'd the water clear,  
 And I wrote my happy songs,  
 20 Every child may joy to hear.

ひなびたペンをつくり  
 きれいな水に色をつけ  
 私の楽しい歌を書いた。  
 すべての子どもが聞いて喜ぶように。

[1] (1) 『無垢の歌』の「序」としてふさわしい詩である。ここには詩の成立、つまり「笛を吹く」→「歌う」→「書く」の創作過程がみごとに描かれている。

(2) 1 Piping down ... wild 冒頭に 'As I went' を補って読む。

(3) 6 cheer = cheer(「気分、機嫌」)、『with good cheer』で「喜んで、元気よく」の意。

(4) 8 he wept “he wept with joy” (12 行目)、また “Excess of sorrow laughs. Excess of joy weeps.” (「地獄の格言」26 番) 参照。

(5) 9 thy = your.

(6) 13 thee = you.

(7) 15 vanish'd = vanished

(8) 16 pluck'd = plucked hollow reed 昔は中空の草を削ってペンを作った。

(9) 18 stain'd = stained = tinged(「色をつける」) 水に浸すと同時に「しみをつける」の意もある。

[2] The Shephard

How sweet is the Shepherd's sweet lot!  
From the morn to the evening he strays ;  
He shall follow his sheep all the day,  
And his tongue shall be filled with praise.

<sup>5</sup> For he hears the lambs' innocent call,  
And he hears the ewes' tender reply ;  
He is watchful while they are in peace,  
For they know when their Shepherd is nigh.

[2] 羊飼

なんと楽しいことだろう、羊飼の楽しい身の上は  
彼は朝から夕べまで歩き回る。  
彼は一日じゅう自分の羊の後を追い、  
彼の舌は神への称賛に満ちている。

だって、彼は子羊の無邪気な呼び声を聞き、  
母羊のやさしい返事を聞くんだから。  
彼が見守っているあいだ羊たちは平和でいられる、  
だって羊たちは羊飼が近くにいてのを知っているから。

[2] (1) 羊飼いは羊から絶対的な信頼を受けているので、彼の身の上は楽しい。

(2) 1 lot = a person's destiny or fortune (「身の上」)

(3) 2 strays = roams, wanders free from control

(4) 4 And his tongue ... praise “let my mouth be filled with thy praise” ( “詩篇” 71:8) “My tongue shall speak... of thy praise all day long.” ( “詩篇” 35:28) 参照。

(5) 6 ewes = female sheeps

(6) 7 in peace = at peace

(7) 8 nigh = near

[3] The Ecchoing Green

The Sun does arise,  
And make happy the skies.  
The merry bells ring,  
To welcome the Spring.  
5 The sky-lark and thrush,  
The birds of the bush,  
Sing louder around,  
To the bells' chearful sound.  
While our sports shall be seen  
10 On the Ecchoing Green.

Old John with white hair,  
Does laugh away care,  
Sitting under the oak,  
Among the old folk.  
15 They laugh at our play,  
And soon they all say,  
Such such were the joys,  
When we all girls & boys,  
In our youth time were seen,  
20 On the Ecchoing Green.

Till the little ones weary  
No more can be merry  
The sun does descend,  
And our sports have an end :  
25 Round the laps of their mothers,  
Many sisters and brothers,  
Like birds in their nest,  
Are ready for rest ;  
And sport no more seen,  
30 On the darkening Green.

[3] こだまが原

お日さまが昇って、  
空を幸せにする。  
楽しい鐘が鳴って、  
春を歓迎する。  
ひばりとつぐみ  
藪<sup>やぶ</sup>の小鳥たちが  
あたりでさらに声高く鳴く、  
快い鐘の音に合わせて。  
ぼくたちの遊びも見られるよ、  
こだまが原で。

ジョンじいさんは白髪で、  
苦労なんか笑い飛ばす、  
オークの木の下に坐って、  
年寄りたちにまじって。  
彼らは子どもたちの遊びを笑い、  
やがてみんなでこう言う。  
「とっても、とっても楽しかったよ、  
わしらはみんな女の子も男の子も、  
若いころはこのこだまが原で  
遊んだものさ」

そのうち小さな子どもたちは疲れてくると、  
もう楽しくなくなってくる。  
お日さまは沈み、  
ぼくたちの遊びも終わる。  
お母さんたちの膝のまわりで  
妹や弟たちが  
巣の中の小鳥のように  
眠りにつこうとしている。  
そして遊びはもう見られない、  
暗くなっていくこだまが原では。

- [3] (1) 表題 The Ecchoing Green = The Echoing Green. ‘Ecchoing’ のスペリングのほうが「こだま」にふさわしい。1 does arise ‘does’ を入れることによって日が昇る感じがよく出ている。
- (2) 2 make happy the skies = make the skies happy.
- (3) 3 ring [動詞] 「鳴る」。
- (4) 6 birds of the bush 「ミソサザイ」 (wren) か。
- (5) 7-8 Sing ... To 「～に合わせて歌う」
- (6) 9 While 「このような時～」。
- (7) 11 Old John = the conventional ‘old shepherd’
- (8) 12 laugh away care 「苦労なんか笑い飛ばす」とは、何もかも忘れて笑いこけること。
- (9) 13 Sitting under the oak 「オークの木の下に坐る」。オークは「森の王者」で、イギリスで最も大きくなる木。オークは櫟と訳されてきたが、日本の樹木名の慣用からいえば、櫟とするよりは檜としたほうがより正確である(足田輝一『樹の文化誌』朝日選書、1985年参照)。
- (10) 17 Such such were the joys G.オーウェルの作品にこの表題を冠した、少年時代の学校生活を回想したものがある。
- (11) 21 Till 「かくて、ついに」。詩によくある軽い用法。
- (12) 24 have an end = come to an end.
- (13) 29 And sport no more seen = And sport is no more seen. 遊ぶ子どもたちの姿が見えないということ。

[4] The Lamb

[4] 子羊

Little Lamb who made thee?  
 Dost thou know who made thee?  
 Gave thee life & bid thee feed,  
 By the stream & o'er the mead ;  
 5 Gave thee clothing of delight,  
 Softest clothing wooly bright ;  
 Gave thee such a tender voice,  
 Making all the vales rejoice :  
 Little Lamb who made thee?  
 10 Dost thou know who made thee?

Little Lamb I'll tell thee,  
 Little Lamb I'll tell thee ;  
 He is called by thy name,  
 For he calls himself a Lamb :  
 15 He is meek & he is mild,  
 He became a little child :  
 I a child & thou a lamb,  
 We are called by his name.  
 Little Lamb God bless thee,  
 20 Little Lamb God bless thee.

子羊よ、だれがおまえをつくったの。  
 だれがおまえをつくったか知っているの。  
 おまえに<sup>いのち</sup>生命を与え、川のそばや  
 牧場で、おまえに草を食べさせ、  
 喜びの着物、ふわふわして輝く  
 いちばん柔らかな着物を与え、  
 どの谷間をも喜びで満たす  
 そんなにやさしい声をおまえにくれた方を。  
 子羊よ、だれがおまえをつくったの。  
 だれがおまえをつくったか知っているの。

子羊よ、教えてあげよう、  
 子羊よ、教えてあげよう。  
 その方はおまえと同じ名前と呼ばれる、  
 その方は自分を子羊と言われたから。  
 その方は柔和でやさしい、  
 その方は小さい子どもになられた。  
 私は子ども、おまえは子羊、  
 私たちはその方と同じ名前と呼ばれる。  
 子羊よ、神さまのおめぐみあれ、  
 子羊よ、神さまのおめぐみあれ。

P22 ~ 33

[4] (1) 「序の歌」で子どもに「子羊の歌を吹いてよ」と言われたことに対する返答の詩。

(2) 1 thee = you

(3) 3 bid = bade

(4) 4 mead = meadow

(5) 5 clothing of delight = delightful clothing

(6) 6 wooly bright 共に 'clothing' の修飾語。

(8) 8 vales = valleys

(9) 13 He is called by thy name 「神の御名はおまえの名前」。子羊も子どもも共に神と同じ名前である、の意。'called' と 2 音節で読む。"Even every me that is called by my name:" (『イザヤ書』43:7) 参照。

(10) 15 He is meek & he is mild "Take my yoke upon you, and learn of me ; for I am meek and lowly in heart : and ye shall find rest unto your souls." (『マタイによる福音書』11:29) 参照。

(11) 16 He became a little child 「神は化身して子どもになられた」。

(12) 17 thou = you.

(13) 18 We are called by his name 「私たちの名前は神の御名」。子羊も子どもも共に神と同じ名前である、の意。

(14) 19 Little Lamb = Infant Jesus "John seeth Jesus coming unto him, and saith, Behold the Lamb of God, which taketh away the sin of the world." (『ヨハネによる福音書』1:29 参照)

[コメント]

イギリスを代表する詩人であるウィリアム・ブレイク(William Blake、1757-1827)の「一粒の砂にも世界を、一輪の野の花にも天国を見、君の掌のうちに無限を、一時のうちに永遠を見る」という詩ほど人々の心をとらえた詩はない。声を出してブレイクの詩を英語の原文で何回かゆつくりと読み、松島正一先生の対訳で意味を確かめることは、英語のよい学習となるだけでなく、人生を豊かにし、また、思慮深さをもたらす。

— 2014 年 1 月 7 日 林 明夫記 —